

大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る

事後調査報告書

(令和5年2月分【護岸建設工事中・埋立中の共通調査②】)

【底質(一般項目)、陸域生態系(鳥類)】

国土交通省 近畿地方整備局

大阪港湾局

大阪湾広域臨海環境整備センター

目 次

I 事後調査の概要

1. 調査概要	I - 1
2. 工事の実施状況	I - 4
3. 調査結果の概要	I - 5

II 事後調査結果

1. 底質	II - 1
2. 陸域生態系（鳥類）	II - 2

I 事後調査の概要

1. 調査概要

「大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る事後調査計画」に基づく令和5年2月（底質、陸域生態系（鳥類））の事後調査の概要は表-1に、調査地点の位置は図-1に示すとおりである。

表-1 事後調査の概要（令和5年2月）

埋立地周辺における調査

(1) 底質（一般項目）表-1(1)

調査項目	調査範囲・地点	調査期間等	調査頻度
粒度組成 含水率 強熱減量 化学的酸素要求量(COD) 硫化物 全窒素(T-N) 全燐(T-P) 酸化還元電位	4点(表層土) 【2, 3, 4, 5】	2月16日	2回/年 (8月、2月)

(2) 陸域生態系（鳥類）表-1(2)

調査項目	調査範囲・地点	調査期間等	調査頻度
鳥類の生息状況	4点 【a, b, c, d】	2月14日、15日	4回/年(3年毎に実施) (5月、6月、8月、2月)

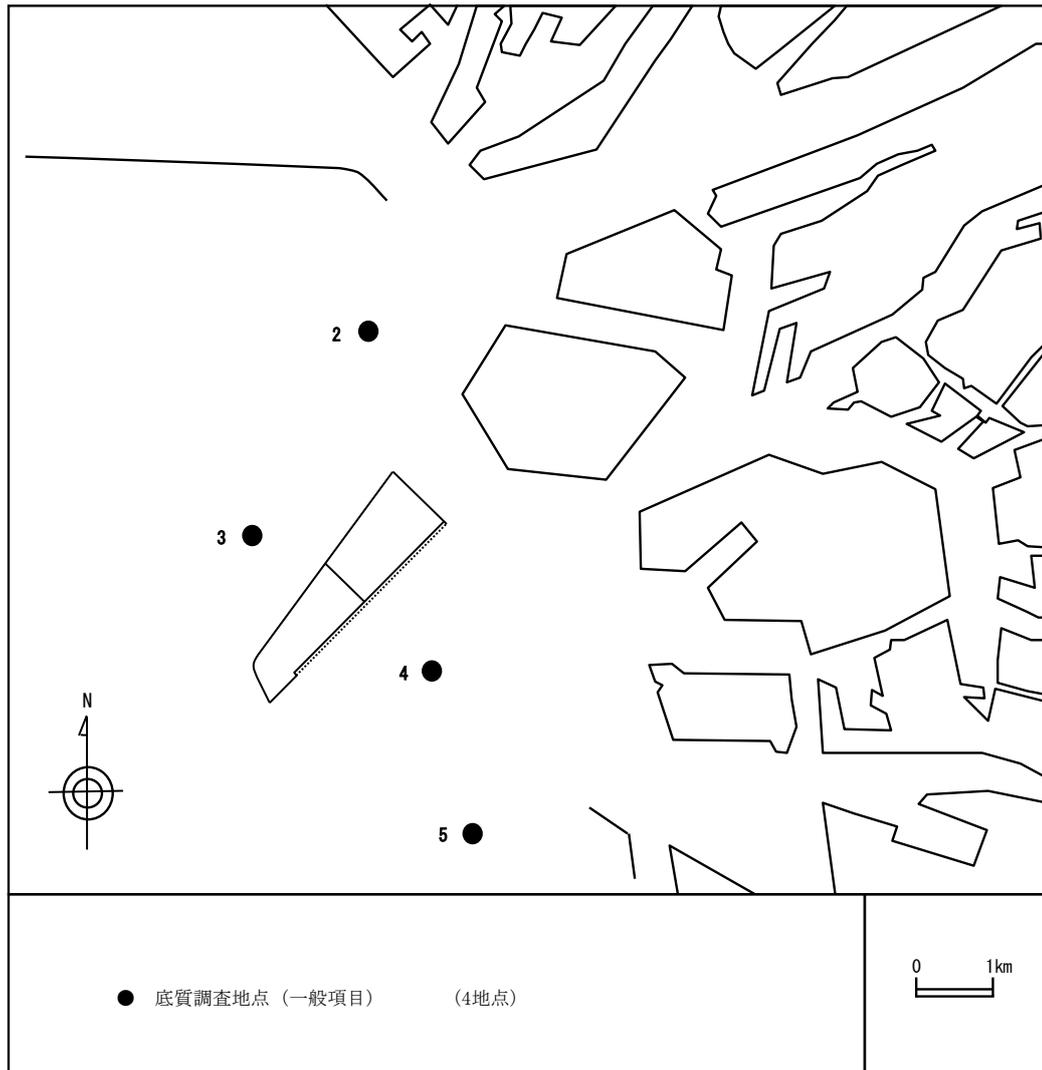
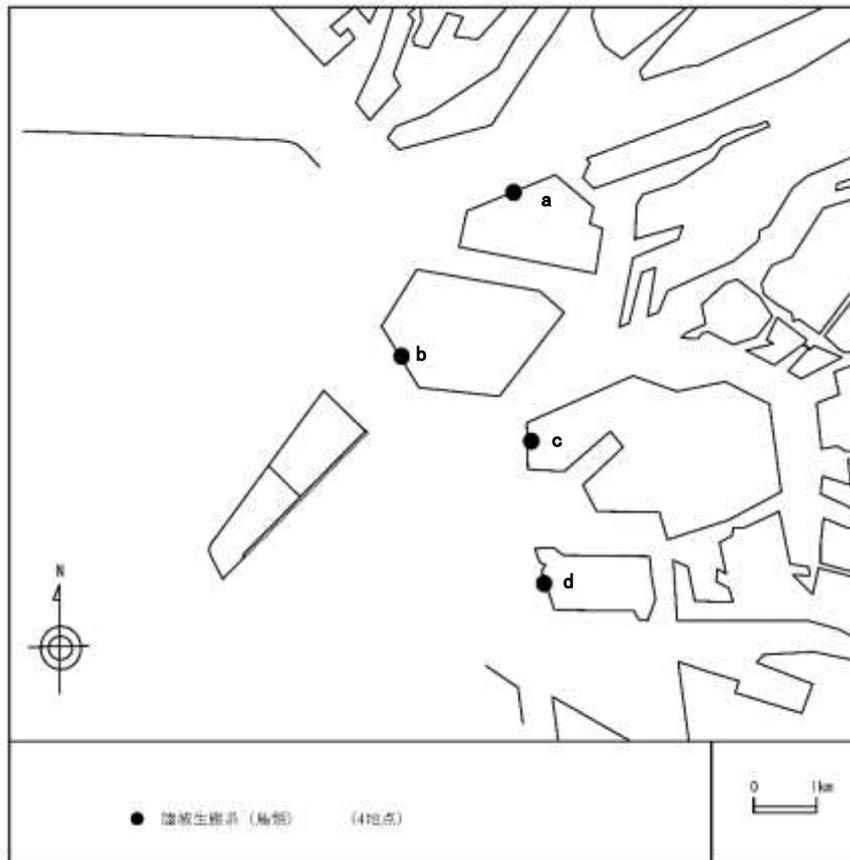


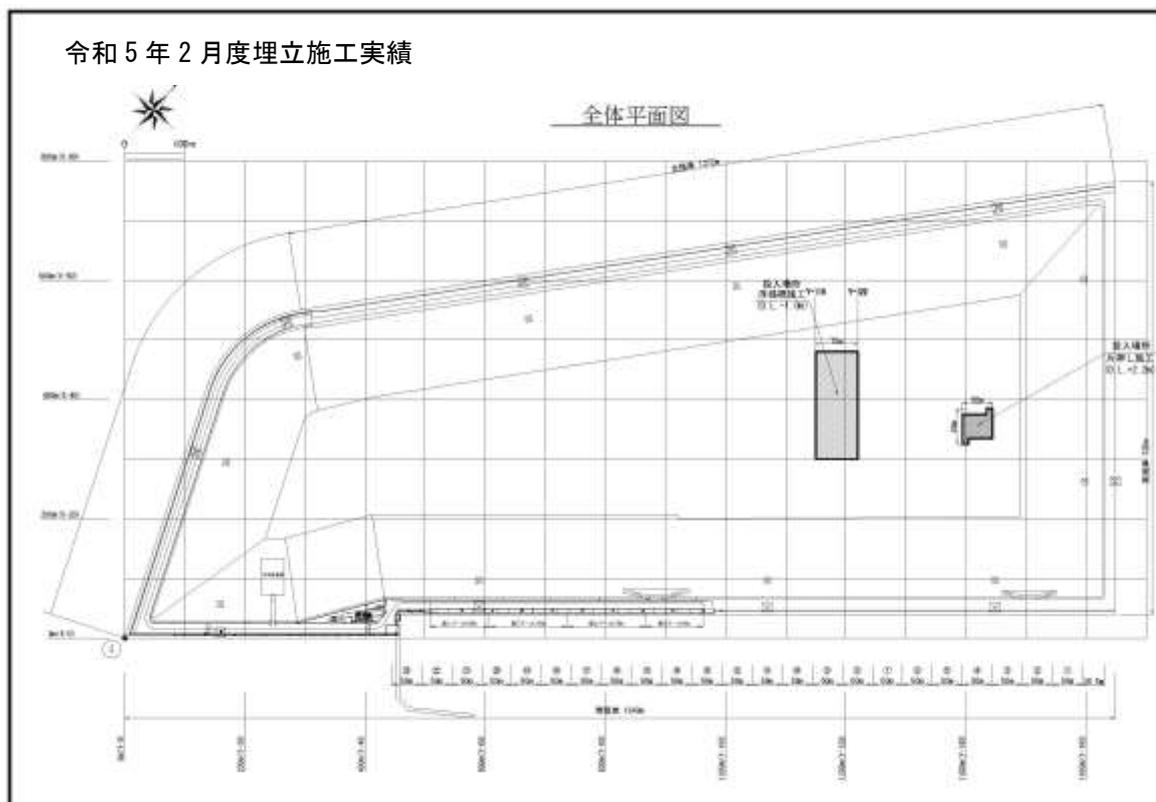
図-1(1) 底質(一般項目)の調査地点 (令和5年2月)



図－1（2） 陸域生態系（鳥類）の調査地点（令和5年2月）

2. 工事の実施状況

令和5年2月の工事の実施状況は、図-2に示すとおりである。



埋立量(m ³)	進捗率(%)
6,978,135	49.9

埋立容量(計画量) : 13,975,000 m³

図-2 工事の実施状況 (大阪沖処分場平面図)

3. 調査結果の概要

埋立地周辺における調査

(1) 底質 [底質様式第1号]

強熱減量は10～11%、化学的酸素要求量(COD)は29～39mg/g、硫化物は0.4～0.7mg/g、全窒素(T-N)は1.5～1.9mg/g、全リン(T-P)は0.49～0.55mg/gの範囲にあった。

(2) 陸域生態系(鳥類) [陸域生態系(鳥類)様式第1～3号(埋立地関連)]

鳥類の出現種類数は、4地点合計で9目20科34種であった。

調査地点別の出現個体数についてみると、調査地点aが最も多く1356羽であり、次いで調査地点cの98羽、調査地点dの72羽、調査地点bの51羽の順であった。

調査地点別の出現種類数についてみると、調査地点cが最も多く20種であり、次いで調査地点aの15種、調査地点bとdの11種の順であった。

個体数が最も多かった調査地点aにおける主要な出現種は、カワウ(カツオドリ目ウ科)、ホシハジロ(カモ目カモ科)、オオバン(ツル目クイナ科)、ヒヨドリ(スズメ目ヒヨドリ科)、カンムリカイツブリ(カイツブリ目カイツブリ科)であった。

事業実施前(平成10年2月:調査地点の位置は、本年度調査の調査地点と同じ)に実施した2月の結果は、4地点合計で8目17科37種であり、本年度は事業実施前と比べて種数がやや少なくなっていた。

事業実施前調査結果を表-2に示す。

陸域生態系（鳥類）表-2 事業実施前調査結果

区分		平成9年8月	平成10年2月	平成10年5月	平成10年6月			
出現状況	目	8	8	10	9			
	科	18	17	21	19			
	種	35	37	37	26			
主な出現種 (個体数、 組成比率)	ウミネコ	(35.4%)	ヒドリガモ	(18.1%)	トウネン	(32.2%)	ムクドリ	(42.6%)
	トウネン	(27.2%)	ホシハジロ	(11.0%)	コアジサシ	(8.4%)	スズメ	(12.3%)
	カワウ	(8.8%)	キンクロハジロ	(7.6%)	シロチドリ	(7.3%)	ツバメ	(12.3%)
	カルガモ	(7.1%)	カワウ	(6.1%)	アジサシ	(4.5%)	コアジサシ	(9.6%)
	スズメ	(4.5%)	スズメ	(5.0%)	ハシブトガラス	(4.3%)	ドバト	(6.5%)

調査地点		a	b	c	d	合計
平成 9年 8月	種類数	16	7	25	10	35
	個体数	103	524	281	91	999
平成10年 2月	種類数	13	17	27	10	37
	個体数	321	456	964	107	1,848
平成10年5月	種類数	19	16	27	17	37
	個体数	73	106	517	126	822
平成10年6月	種類数	15	10	19	15	26
	個体数	130	138	175	109	552
年間	種類数	32	32	47	27	60
	個体数	627	1,224	1,937	433	4,221

II 事後調查結果

底質様式第1号

底質調査結果（一般項目） [令和5年2月分]

調査日：令和5年2月16日

項目		調査点				最小値	～	最大値	平均値
		2	3	4	5				
採泥時刻		11:15	11:00	10:23	10:10	—		—	
粒度組成 [%]	粗礫 (19mm以上)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	～	0.0	0.0
	中礫 (4.75～19mm)	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	～	0.8	0.2
	細礫 (2.00～4.75mm)	0.0	0.4	0.3	0.0	0.0	～	0.4	0.2
	粗砂 (0.850～2.00mm)	0.0	0.4	0.4	0.0	0.0	～	0.4	0.2
	中砂 (0.250～0.850mm)	0.2	0.4	0.7	0.4	0.2	～	0.7	0.4
	細砂 (0.075～0.250mm)	0.4	0.3	0.4	0.2	0.2	～	0.4	0.3
	シルト (0.005～0.075mm)	66.3	60.4	62.5	65.6	60.4	～	66.3	63.7
	粘土 (0.005mm以下)	33.1	38.1	34.9	33.8	33.1	～	38.1	35.0
含水率 [%]		69	69	67	68	67	～	69	68
強熱減量 [%]		11	10	10	10	10	～	11	10
化学的酸素要求量 (COD) [mg/g乾泥]		39	32	29	30	29	～	39	33
硫化物 [mg/g乾泥]		0.7	0.5	0.4	0.5	0.4	～	0.7	0.5
全窒素 (T-N) [mg/g乾泥]		1.6	1.9	1.5	1.8	1.5	～	1.9	1.7
全燐 (T-P) [mg/g乾泥]		0.55	0.49	0.52	0.55	0.49	～	0.55	0.53
酸化還元電位 [mV]		-240	-190	-260	-250	-260	～	-190	-235

特記事項

陸域生態系（鳥類）様式第1号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（種別出現状況）〔令和5年2月分〕

調査日：令和5年2月14日、15日

No.	目名	科名	種名	渡り区分	地点別出現個体数				
					a	b	c	d	計
1	カモ目	カモ科	ツクシガモ	冬鳥				2	2
2			オカヨシガモ	冬鳥	2				2
3			ヒドリガモ	冬鳥	3			2	5
4			マガモ	冬鳥			12		12
5			カルガモ	留鳥		2			2
6			コガモ	冬鳥			7		7
7			ホシハジロ	冬鳥	561				561
8			キンクロハジロ	冬鳥		5			5
9			ミコアイサ	冬鳥				1	1
10	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	留鳥			1	1	
11			カンムリカイツブリ	冬鳥	7			7	
12	ハト目	ハト科	カワラバト(ドバト)	移入種		3		9	
13			キジバト	留鳥	2			2	
14	カツオドリ目	ウ科	カワウ	留鳥	740		16	756	
15	ペリカン目	サギ科	アオサギ	留鳥			7	1	8
16	ツル目	クイナ科	オオバン	留鳥	13		12		25
17	チドリ目	シギ科	イソシギ	留鳥	4				4
18		カモメ科	カモメ	冬鳥	1			5	6
19			セグロカモメ	冬鳥	1		2	2	5
20	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	留鳥			1	2	3
21		タカ科	トビ	留鳥	2		1	2	5
22	スズメ目	カラス科	ハシブトガラス	留鳥	4		4	44	52
23		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	留鳥	10		13	2	25
24		エナガ科	エナガ	留鳥			1		1
25		メジロ科	メジロ	留鳥			7		7
26		ムクドリ科	ムクドリ	留鳥		5			5
27		ヒタキ科	シロハラ	冬鳥	1		1		2
28			ツグミ	冬鳥		1	3		4
29			ジョウビタキ	冬鳥		1	1		2
30		スズメ科	スズメ	留鳥		20	3		23
31		セキレイ科	ハクセキレイ	留鳥	5	2	2	1	10
32			タヒバリ	冬鳥		8			8
33		アトリ科	カワラヒワ	留鳥（一部冬鳥）		3	3		6
34		ホオジロ科	ホオジロ	留鳥		1			1
合計（9目20科34種）				目数	8	3	8	6	9
				科数	12	8	16	9	20
				種類数	15	11	20	11	34
				個体数	1356	51	98	72	1577

注) 1. 分類及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト-令和3年度生物リスト」（国土交通省 2021）に従った。

2. 渡りの区分は、「大阪府鳥類目録2001」（(財)日本野鳥の会大阪支部、2001）に従った。

陸域生態系（鳥類）様式第2号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（主な出現種の構成割合）〔令和5年2月分〕

調査日：令和5年2月14日、15日

区分		地点別出現数				
		a	b	c	d	計
出現状況	目	8	3	8	6	9
	科	12	8	16	9	20
	種	15	11	20	11	34
出現個体数		1356	51	98	72	1577
主な出現種 (個体数、組成比率)		カワウ (740羽、54.6%) ホシハジロ (561羽、41.4%) オオバン (13羽、1.0%) ヒヨドリ (10羽、0.7%) カンムリカイツブリ (7羽、0.5%)	スズメ (20羽、39.2%) タヒバリ (8羽、15.7%) キンクロハジロ (5羽、9.8%) ムクドリ (5羽、9.8%) カワラヒワ (3羽、5.9%) カワラバト(ドバト) (3羽、5.9%)	カワウ (16羽、16.3%) ヒヨドリ (13羽、13.3%) マガモ (12羽、12.2%) オオバン (12羽、12.2%) コガモ (7羽、7.1%) メジロ (7羽、7.1%) アオサギ (7羽、7.1%)	ハシブトガラス (44羽、61.1%) カワラバト(ドバト) (9羽、12.5%) カモメ (5羽、6.9%) ヒヨドリ (2羽、2.8%) ミサゴ (2羽、2.8%) トビ (2羽、2.8%) ツクシガモ (2羽、2.8%) ヒドリガモ (2羽、2.8%) セグロカモメ (2羽、2.8%)	カワウ (756羽、47.9%) ホシハジロ (561羽、35.6%) ハシブトガラス (52羽、3.3%) オオバン (25羽、1.6%) ヒヨドリ (25羽、1.6%)

注) 表中の主な出現種は、地点別の優占種上位5種を示した。

陸域生態系（鳥類）様式第3号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（科別出現状況）〔令和5年2月分〕

調査日：令和5年2月14日、15日

調査地点		a		調査地点		b	
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	ウ科	1	54.6%	1	スズメ科	1	39.2%
2	カモ科	3	41.7%	2	セキレイ科	2	19.6%
3	クイナ科	1	1.0%	3	カモ科	2	13.7%
4	ヒヨドリ科	1	0.7%	4	ムクドリ科	1	9.8%
5	カイツブリ科	1	0.5%	5	ハト科	1	5.9%
6	セキレイ科	1	0.4%	5	アトリ科	1	5.9%
7	シギ科	1	0.3%	7	ヒタキ科	2	3.9%
7	カラス科	1	0.3%	8	ホオジロ科	1	2.0%
9	ハト科	1	0.1%				
9	タカ科	1	0.1%				
9	カモメ科	2	0.1%				
12	ヒタキ科	1	0.1%				

調査地点		c		調査地点		d	
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	カモ科	3	20.4%	1	カラス科	1	61.1%
2	ウ科	1	16.3%	2	ハト科	1	12.5%
3	ヒヨドリ科	1	13.3%	3	カモメ科	2	9.7%
4	クイナ科	1	12.2%	4	カモ科	2	5.6%
5	メジロ科	1	7.1%	5	タカ科	1	2.8%
5	サギ科	1	7.1%	5	ヒヨドリ科	1	2.8%
7	ヒタキ科	3	5.1%	5	ミサゴ科	1	2.8%
8	カラス科	1	4.1%	8	サギ科	1	1.4%
9	スズメ科	1	3.1%	8	セキレイ科	1	1.4%
9	アトリ科	1	3.1%				
11	カモメ科	1	2.0%				
11	セキレイ科	1	2.0%				
13	エナガ科	1	1.0%				
13	カイツブリ科	1	1.0%				
13	タカ科	1	1.0%				
13	ミサゴ科	1	1.0%				

注) 優占率は四捨五入した値を表示しており、合計は100.0%にならないことがある。